

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
101	拓殖大学	スペイン語史概論Ⅱ	廣澤 明彦 外国語学部 教授	2	後期	火	13	13:50～15:35	拓殖大学 八王子国際キャンパス	5

#### 【授業の目的及び到達目標】

この授業では Samuel Gili Gaya(1966)著 “Nociones de Gramática histórica española” を引き続き扱います。後期のⅡは第6章から精読していく予定です。前期開講の「スペイン語史概論Ⅰ」で扱った知識を前提に進めますので、後期から履修する学生は注意してください。以下の授業計画に基づき、精読していく予定です。

#### 【授業内容】

- ラテン語の母音の特徴の復習  
この授業の進め方の説明、資料配布、参考文献の入手について、解説を予定しています。尚フィードバックはブラックボード上で行います。以下同様です。
- 語頭の子音群の推移  
変化を伴わずスペイン語へと推移した場合と、硬口蓋音化した fl-, cl-, pl- について扱います。
- 母音間の重子音の推移 その1  
単子音化した -cc-, -pp-, -tt-, -ss-。硬口蓋音に推移した -ss-, -ll-, -ffl- について扱います。
- 母音間の重子音の推移 その2  
俗ラテン語 (latin vulgar=LV) の -nn- の硬口蓋音化、-mn- の推移について扱います。-sc-+i 又は e という連続の推移についても扱います。
- 単子音+yod の推移 その1  
LV t' j > z, LV k' j > ç。教養語、他の重子音化、その他の影響による z への統合について扱います。
- 単子音+yod の推移 その2  
音声群 bj, vj が保存される場合と推移する場合。-dj-, 子音+dj の推移など。
- 現代スペイン語の/x/をもたらした yod を伴う音声群 その1  
中世スペイン語の/ž/をもたらした音声群 LV -lj- における yod の複雑な事情についての項目です。
- 現代スペイン語の/x/をもたらした yod を伴う音声群 その2  
音声群 c' l と g' l の推移とこれらに先行する子音 l, n, s, c を伴う場合の推移について。
- 子音群-ct-  
LV -ct-(intervocálica) のスペイン語への推移と yod の発生、子音群と接触した場合の状況について扱います。
- L を伴う子音群  
LV l+子音 において母音化した l。音声群-ult- における l の yod 化について扱います。
- 語末の子音  
-d, -t, -c, -b の脱落、LV l-, r-, -x の保存、複数形の屈折 LV -s の保存についての項目です。
- 異化  
異化(disimilación)について扱った項目を精読します。r-r > r-l, n-n > l-n, n-r などについて詳しく扱っています。
- 同化、音位転換、試験  
同化、音位転換について扱います。総まとめと試験の実施を予定しています。

※拓殖大学の授業時間は、1時限 105分となっています。

#### 【授業の方法】

予め配布する資料は、授業の前に必ず訳しておいてください。授業では名簿に基づき指名し、学生は訳を発表、解説、その後質疑応答、そして次に当たる学生、といった流れになるかと思えます。

#### 【予習・復習】

受講者はまず、各回の授業の流れを確認してください。そして毎回の授業で担当教員の解説、ヒントをしっかりと聞いたうえで、予習に臨むことを期待しています。文献の訳の発表が中心となりますが、以下で紹介する参考書等からの追加情報などの発表も期待しています。

#### 【成績評価方法】

平常点(10%)、小テスト(30%)、筆記試験(60%)を加味して評価します。平常点は出席状況と授業にきちんと準備して臨んでいるか否かで決定。履修者の状況により、試験の代わりにレポート(60%)を課すか決めます。

#### 【参考書、教材等】

教科書：Samuel Gili Gaya, 1966, “Nociones de Gramática histórica española”, Biblograf  
参考書：寺崎英樹, 2011, 『スペイン語史』, 大学書林

※ この授業は、9/26(火)が初回です。